

○管理区評価調書

1 森林の整備に関する事項

(1) 森林の整備

ア 森林資源の状況

区分		単位	計画期首	計画期末	増減	
人工林	育成単層林	面積	ha	11,976	11,596	-380
		蓄積	千m3	2,755	2,628	-127
	育成複層林	面積	ha	3,116	3,505	389
		蓄積	千m3	620	906	286
	計	面積	ha	15,092	15,101	9
		蓄積	千m3	3,375	3,534	159
天然林	天然生林	面積	ha	26,502	26,502	0
		蓄積	千m3	7,907	8,261	354
その他	未立木地等	面積	ha	266	257	-9
		蓄積	千m3	0	0	0
計	面積	ha	41,860	41,860	0	
	蓄積	千m3	11,282	11,795	513	

※「計画期首」は前期計画の期首、「計画期末」は前期計画の期末（以下同じ）。

イ 計画量の実行状況

区分		単位	計画 (A)	実績 (B)	実行率 (B)/(A) %	
伐採	人工林	主伐	千m3	111.1	94.6	85
		間伐	千m3	200.9	189.3	94
		計	千m3	312.0	283.9	91
	天然林	主伐	千m3	0.0	0.0	
		間伐	千m3	38.0	31.2	82
		計	千m3	38.0	31.2	82
	計	主伐	千m3	111.1	94.6	85
		間伐	千m3	238.9	220.5	92
		計	千m3	350.0	315.1	90
造林	人工林	人工造林	ha	1,142	719	63
		天然更新	ha	0	0	
		計	ha	1,142	719	63
	天然林	人工造林	ha	0	0	
		天然更新	ha	0	0	
		計	ha	0	0	
	計	人工造林	ha	1,142	719	63
		天然更新	ha	0	0	
		計	ha	1,142	719	63
路網 (開設)	林業専用道	km	12.7	8.0	63	
	森林作業道	km	0.0	0.0		
	計	km	12.7	8.0	63	

※「計画」は前期計画（以下同じ）の計画量である。

ウ 評価指標

(ア) 伐採材積の実行率 (千m³、%)

計画	実績	実行率
350.0	315.1	90

※伐採実績総量の計画総量に対する割合

(イ) 間伐面積の実行率 (ha、%)

計画	実績	実行率
3,806	2,904	76

※計画期間における間伐実績総量の計画総量に対する割合

(ウ) 路網密度 (m/ha)

計画期首	計画期末	増減
12.6	12.8	0.2

※計画期首と計画期末における路網密度

(エ) 人天別森林蓄積 (m³/ha)

区分	計画期首	計画期末	増減
人工林	224	234	10
天然林	298	312	14
平均	270	282	12

※人工林、天然林別のha当たり蓄積

(オ) 育成複層林など多様な森林に誘導する人工林面積 (ha)

区分	計画期首	計画期末	増減
育成単層林	2,222	2,353	131
育成複層林	3,115	3,505	390
計	5,337	5,858	521

※5ha以下の単層林施業と複層林施業の合計実施面積

エ 課題 (評価指標の分析等)

伐採材積はR2の木材供給一部見合せによる減以外概ね計画どおり。間伐面積は天然林で計画小班を全面積計上したが、実行段階で未伐地が生じたための減で、人工林間伐は概ね計画どおり。

オ 今後の対応方向

トドマツ人工林は高齢化による森林機能の衰退と材の腐朽が危惧されることから、人工林として積極的に更新を進める森林と、天然林へ誘導する森林に区分を精査し、適切な施業を実施する。

(2) 森林の保全

ア 取組内容

エゾシカや病害虫等による森林被害の防止・低減を図る取り組みを進めた。また、ヤツバキクイムシによるカラマツ人工林被害地の整理と復旧を進めた。

イ 評価指標

(ア) エゾシカ森林被害実面積 (ha)

前計画	現計画	増減
20.54	17.57	-2.97

※エゾシカによる食害等の森林被害実面積

「前計画」は前計画期間の前期、「今計画」は現計画期間の前期である（以下同じ）。

ウ 課題（評価指標の分析等）

エゾシカによる森林被害の防止・低減を図るため、林道除雪により捕獲環境を整えるとともに、囲いワナによる捕獲で一定の成果を上げた。また、地域の要望に応えくくり罠設置に協力した。

エ 今後の対応方向

今後も引き続きエゾシカ被害防止対策を進める。ヤツバキクイムシについては今後も発生状況を注視しながら適正な植栽樹種の選定に努める。

(3) 林産物の供給

ア 取組内容

森林認証材や未利用材の木質バイオマス活用など地域のニーズを踏まえ、素材生産者や木材加工者との意見交換を積極的に行い、計画的に木材を供給した。

イ 評価指標

(ア) 協定販売件数（延べ） (件)

前計画	現計画	増減
21	6	-15

※協定販売による契約件数

ウ 課題（評価指標の分析等）

地材地消を図るため、地域の素材生産業者、木材加工業者と協定を締結し、一般材や原料材など多様な木材資源を公共建築物や木質バイオマス等に有効活用されるよう取り組みつつ供給した。

エ 今後の対応方向

地域の素材生産業者や木材加工業者等との協定締結を更に進めるとともに、地域の木材利用状況を踏まえた原木の安定供給に努める。

(4) 地域と連携した森林施業等

ア 取組内容

地域の森林づくりを効率的・効果的に進めるため、道有林の路網を共同で利用する共同施業を推進した。

イ 評価指標

(ア) 共同施業等の件数 (件)

前計画	現計画	増減
0	1	1

※共同施業、共同出荷、路網等の共同利用の実施件数

ウ 課題（評価指標の分析等）

一般民有林の造林作業に道有林の路網を活用することで、地域の森林整備を推進することが出来た。

エ 今後の対応方向

道有林の路網等を活用した一般民有林の森林整備について、各関係市町との連携を促進する。

(5) 森林施業の低コスト化

ア 取組内容

人力作業が主体の造林について、軽労化や低コスト化への取り組みを行った。

イ 評価指標

(ア) 機械作業を前提とした人工林の造成面積 (ha)

前計画	現計画	増減
39	102	63

※機械作業を前提とした人工林の造成面積

ウ 課題（評価指標の分析等）

緩傾斜地で安全な作業が可能な箇所では建設機械による機械地拵えを実施し、効率化を進めたほか、コンテナ苗の導入により植栽に係る労働力の低減を図った。

エ 今後の対応方向

緩傾斜地で安全な作業が可能な箇所では、引き続き建設機械による機械地拵えを推進する。植栽では軽労化へ向け、地元企業体と協力してUAVによる苗木運搬の試行を行う。

(6) 林業事業体等の育成

ア 取組内容

地元林業事業体における雇用の確保や設備投資を促進するため、随意契約による立木販売を実施した。

イ 評価指標

(ア) 長期安定供給販売量の割合 (量：m3、割合：%)

区分	計画期首	計画期末	増減
総販売量	72,355	73,000	645
長期安定供給販売量	0	0	0
割合	0	0	

※立木販売総量に対する長期安定供給販売量の割合

ウ 課題（評価指標の分析等）

高性能林業機械の新規導入が図られ素材生産性が向上したほか、安定的な雇用の確保が図られた。

エ 今後の対応方向

引き続き素材生産から造林、保育までの森林整備を安定的に担うことの出来る地元林業事業体を育成し、地域の振興と雇用促進を図る。

2 森林の管理に関する事項

(1) 取組内容

公有財産である道有林を適正に管理するとともに、入林者の安全を確保するため林道施設の安全点検を実施した。また、保安林等の適切な管理に取り組んだ。

(2) 評価指標

ア 林野火災の発生件数 (件)

前計画	現計画	増減
0	0	0

※林野火災の発生件数

(3) 課題 (評価指標の分析等)

林野火災予防のほか、廃棄物の不法投棄などの違法行為を防止する巡視、ヒグマによる人的被害発生時には注意喚起看板の設置などを実施した。

(4) 今後の対応方向

公有財産である道有林を適正に管理する取り組みを継続する。

3 森林の活用に関する事項

(1) 取組内容

特色ある森林環境を活かし、森林レクリエーションや観光等に利用される遊歩道の整備を行った。また、ボランティア活動、木育活動、試験研究の場としてフィールドを提供した。

(2) 評価指標

ア 入林者数 (人)

区分	前計画	現計画	増減
レクリエーション、調査・測量等	2,953	3,141	188
狩猟	83	56	-27

※計画期間における道有林野への入林者数

イ 木育活動参加人数 (人)

前計画	現計画	増減
459	493	34

※道有林野をフィールドとした木育活動等の参加人数

(3) 課題 (評価指標の分析等)

森林レクリエーションや木育活動、試験研究のフィールドとして道有林の活用が図られるとともに、人的交流が促進された。

(4) 今後の対応方向

引き続き様々な活動の場として道有林の活用を進め、森林に対する関心と森林整備への理解促進を図る。

4 道民との合意形成

(1) 道民意見の把握

ア 目的

道有林に関する道民の意見やニーズを把握し、道有林基本計画、整備管理計画策定に反映させることを目的としている。

イ 調査方法

地域住民を対象に、道有林基本計画策定等の地元説明会や各種木育イベント、現地見学会等の開催時に参加者からアンケート形式にて森林や整備管理に対する意見、要望等を聴取している。

ウ 評価指数

(ア) 道有林の管理運営に対する満足度 (%)

区分	満足	まあ満足	どちらでもない	少し不満	不満	計
回答数	16	41	35	3	2	97
割合	16.5	42.3	36.1	3.1	2.1	100

※地域住民へのアンケート調査結果より

エ 課題 (評価指標の分析等)

満足・まあ満足で60%弱だが、どちらでもない・少し不満・不満で40%強であり、更なる情報発信とニーズへの対応が必要。

(2) 管理区評価現地説明会の開催

開催年月日	主な内容	参加人数	主な参加者
2021年9月16日	トドマツ高齢人工林の取り扱い等	14	一般公募、有識者

5 総括 (森林の整備・管理に関する課題と今後の方向性)

当管理区は網走川、常呂川の2つの流域の上流部に位置し、整備管理については関係各機関の意見要望を踏まえつつ、森林の持つ様々な機能を最大限に発揮させるよう努める。